



白川郷荻町集落の自然環境を守る会 発行 平成19年 12月号

三村交流会・大桃美代子さん講演開催！！

去る12月9日、荻町多目的集会施設においてみだしの会が開催されました。この日は白川・五箇山が世界遺産に登録された記念すべき日であり、この日に合わせて、世界遺産白川郷合掌造り保存財団設立10周年の記念式典が開催されました。講演や平高校民謡披露には170名を超える方々がお集まりくださり、懇談会や懇親会にも100名近い方々をご参加くださいました。今回は、大桃美代子さんの講演内容と懇談会で出されたご意見の要旨を掲載いたします。

外部から見た世界遺産合掌集落（大桃美代子さん講演要旨）

荻町展望台からの景色がとても素晴らしいですね。白川郷にはじめて訪れたのに、何か懐かしさを感じました。他地域では観光開発に大変苦労していますが、白川には沢山のお客様がおみえになり、とてもうらやましく感じています。



さて、私が情報番組を担当していた時、故郷魚沼が震災でめちゃくちゃになった現場に居合わせました。そして「復興のお手伝いを」「私にできることは」と考えるようになりました。また、番組降板後に韓国へ留学する機会を得ました。韓国へ行くとなぜか体調がよくなるのです。それは、ご飯に入っている雑穀のおかげだとわかりました。ミネラルや繊維質を多く含み美味しい。東京では健康ブームで雑穀を食べる若者が増えています。そこで、魚沼の美味しいコシヒカリと雑穀を混ぜあわせて新しい食の提案ができないか。それが魚沼の復興につなげられないかと考えたのです。そこで、私は雑穀エキスパートという資格を取り「大桃美代子ブレンド発芽十二雑穀」（内9種類に発芽した雑穀を使用）を販売しています。また、黒米づくりで都会と田舎を行き来するうちに、都会に住んでいるからわかる地方のよさ、お金がなくても自然と共に豊かに暮らせるよさに気付くことができました。そして、現在は「ジョイン大使」（都会と田舎をつなぐのジョイント、楽しむのエンジョイからきた造語）の仕事もいただいています。その中から得た情報を紹介したいと思います。

まず最初は四国の香川です。讃岐うどんの産地で、500円のうどんを食べるために、遠くから高い交通費をかけてやってきます。その成功の秘密はセルフ方式にあります。お店に入るとうどんの白玉やトッピングの具材が並んでいて、自分で準備しゆがいていただくのです。究極のお店では、ハサミをわたされました。それで庭先の畑から直接ネギを切ってきて自分の分だけ刻んでのせるのです。食の安全を確かめることができるし、ちょっと手間をかける体験が旅の思い出となり、それが口コミとなり人が集まります。香川が舞台の映画UDONは、知人のシナリオライターの作品なのですが、香川は人が優しくて撮影がしやすいと言っていました。それは、四国が巡礼の地であり、お遍路さんへの「ご接待」の習慣があるからなのです。おもてなしの大切さを感じました。ただ、うどんが売れすぎる弊害も出ていて、うどんのゆで汁で川を汚してしまう問題がでてきました。現在は、各店舗に浄化槽の設置が義務づけられているそうです。

環境がよくなったことを観光につなげている地区があります。兵庫県豊岡市です。「コウノトリがくる町」として水田の有機農法や無農薬に努めることにより、コウノトリの餌となる生物が増えました。農業製品の安全性をコウノトリでブランド化したわけです。通常1俵のお米は1万2千円前後で販売されますが、コウノトリ米は何と10万円。お米以外の農作物も高く売ることができ、大豆は3倍の値段で売れます。環境への配慮と食の安全性をうまくブランド化につなげた事例です。

次は、環境が壊れたことで人を集めている地域です。それは3年前の地震で被害を受けた新潟県山古志村（現長岡市）です。現在復旧が進み新しい道路が完成していますが、その新道からは地震でできた天然ダムや家が埋まっている様子を見ることができます。それを保存しようという動きもあるようです。山間地で起きた地震の爪痕をあえて残すことが、今後の地震対策に役立つと考えたわけです。この地域の方々は、地震直後から直向きに経済活動を営んでいました。報道人に対して、畑の野菜をつかったおもてなし弁当を販売したのです。また、月に3千人は訪れる視察調査団に対して、食事を提供するだけでなく、おばあちゃんが語り部となって地震の様子を伝えお金を得ていました。野菜の即売をする人もいました。壊れた景観を残すことで町おこしにつなげるたくましさを感じました。

私も黒米を製品化していますが、表示の難しさを体験しました。お米の表示に「大桃美代子の桃米。私の故郷魚沼で自然農法で作りました」と記載するつもりで申請を出したのですが、新潟県の指定米

でないため魚沼の表示は却下され国内産と表示。自然農法と表示するには、自然ではない農法の説明義務が生じるため無理。産地表示をしてお客様に安心して買っただけのように考えたのですが、それが出来ない行政との矛盾を体験しました。また、販路の開拓が大変なのですが、世界遺産米には高いブランド価値があります。必ず売れます。がんばってください。

ヘリテイジ(遺産)には、一度壊したら復元できない物という意味が含まれています。白川には先人から守り伝えられてきたそれがあります。日本各地が白川や五箇山のこれからの注目を狙っているのです。景観美こそが白川の武器です。観光の先頭に行く白川だからこそ、文化の成熟度を感じる。来てほっとする故郷にしていってください。地域おこしには、よそもの(外から見る目)、わかもの(若い人の意識)、ばかもの(邁進するパワー)の3つの要素が必要です。保存と活用のモデルとして、白川の20年後の姿から「しっかり守れば自分たちも白川のように観光で町おこしができるんだ」という意識がもてる希望の星になってください。そのためにも、合掌造りの保存と不耕作地を無くす努力を。これからも応援しています。本日はありがとうございました。

懇談会で出されたご意見(要旨)

- ・観光化にともない農業がおろそかに。景観こそが村の宝である。
- ・合掌造りや世界遺産についての勉強会で住民の意識を高めよう。
- ・3集落とも他の世界遺産に引けをとらない景観美を持っている。そのことに自信と誇りをもって保存にがんばりたい。
- ・景観美を守るためにも農業振興を。お米のブランド化を。
- ・高齢化や後継者問題。住んでいるから遺産としての価値がある。
- ・高速道路全通の影響と対策を。他所の業者の進出や観光客の増大、モニタリングへの対策を。
- ・守ることへの努力と村への誇りが素晴らしい。危機遺産になることが心配との声があったが、伝統的建造物群や史跡をきっちり守ることが世界遺産を守ることと永続的良質な観光資源につながる。
- ・他の伝建地区と違い、3集落は全景が見渡せる展望台を持っている。その景観美が価値を高めている。だからこそ、生活や観光業としての空間の使い方に配慮が必要となる。
- ・景観を守るために、先人(第一世代)は素晴らしい住民憲章を創設し努力してきた。その第二世代から第三世代となりつつある今、我々はしっかり守る努力をしているのか。実直に行動したい。
- ・観光客からのクレーム。世界遺産にふさわしいおもてなしの心と笑顔でお客様に接したい。
- ・住民が何度も集い討議する三村交流会には大きな価値がある。これが保存の継続につながる。
- ・世界遺産だからこそ観光客が訪れる。次の世代へとしっかり伝承する責任と義務が我々にある。
- ・報道機関に感謝。世界遺産に感謝。観光客に、先人に、仲間へ感謝。感謝の気持ちを忘れないで、永続的な世界遺産の継承を！！



【懇親会での芸能披露】

[文責：和田 正人]

荻町女性会の皆様へ！！

村教委主催による荻町女性会を対象とした学習会(伝建制度の仕組みや世界遺産の価値について知ろう)を以下の日程で開催します。全員にご出席いただけるよう、同じ内容で4回開催いたしますので、ご都合のよろしい回にご参加くださいますようお願い申し上げます。

日時：12月 17日(月)・20日(木) 午後1時30分と午後7時30分から(1時間30分程度)
場所：荻町多目的集会施設 1階 和室

守る会の活動指針(国際フォーラム白川郷宣言より)

- (1) 隣人にやさしい心豊かで安全な共同生活のいっそうの充実
- (2) かけがえのない美しい文化遺産の保全と未来への確かな継承
- (3) 国内外の人々との文化交流を通して友好の輪の拡大

= 11月の活動報告 =

- 11月 4日 三村交流会にむけての打合せ
- 11月 9日 役員会・定例会(15名)
- 11月 13日 オダレ請求書配布・ねそ発行
- 11月 15日 ブロードバンド促進検討会(事務局)
- 11月 16日 荻町新交通システム
- 11月 17日 荻町新交通システム
- 11月 24日 三村交流会にむけての打合せ
- 11月 26日 交通対策委員会

= 区民の皆様へ =

建物や土地などの現状を変更する場合は許可が必要です。必ず現状変更申請をして下さい。申請書は守る会定例会の2週間前までに財団又は各組代表の委員に提出して下さい。このことは、遺産の保全と未来への継承のためとても重要なことです。皆さんの理解とご協力をお願いします。

12月の協議事項(現状変更申請に関わって)

***...下屋の移動

